

道徳通信かがわ

第43号

令和4年9月9日（金）

香川県教育委員会事務局

義務教育課

「考え、議論する」授業 —善通寺市立西中学校 公開授業— 「一人一人が輝く授業づくり」 —坂出市立松山小学校 公開授業—

7月5日（火）、善通寺市立西中学校において、「道徳的諸価値について『考え、議論する』授業づくり」を研究主題として道徳科の研究事業を行いました。また、7月6日（水）、坂出市立松山小学校において「一人一人がかがやく授業づくり」を研究主題として道徳科の研究授業を行いました。

【公開授業「自分の性格が大嫌い」（善通寺市立西中学校 長谷川翼教諭）】

「他者とのかかわりの中で、自分らしさを発揮できる生き方に向けて、一人一人が持つ個性をどう捉えるか」がポイントでした。授業者の長谷川先生は、「自分の性格についての程度好きか」についての事前アンケートを紹介し、誰もが自分の性格について嫌いな部分があることを共有しました。教材を読む際には、個性の捉え方について作者の考えがわかる部分に線を引くよう視点を絞らせる工夫が見られました。



グループ交流では、「プラスの見方」について長谷川先生が具体例を示してから、生徒の交流を行いました。あるグループでは、「口調がきつい」という意見に対し、「物事をはっきりいえる」とプラスの見方に班員が変換するなど、活発な意見交換が行われ、個性についての考えを深めました。授業後のワークシートには、自分ではよくないと感じていた性格もプラスの見方を試みたり、長所と感じている部分は更に輝かせたいという決意を表明したりするなど、自分を肯定的に受け止めようとする内容が多く見られました。

【授業後の検討会（義務教育課 主任指導主事 深澤裕幾）】

【考え、議論する道徳の視点から、授業を拝見して】

①問題意識を持つ場面

→事前アンケートにより授業の中で「考えたい」「なかまの意見を聞きたい」等、一人一人が課題意識をもって授業に参加できた。意見は、ICTの活用により、多様な意見に触れる工夫が見られた。

②自分との関わりで捉えて考える場面、多面的・多角的に考える場面

→読み物資料の主人公の考え方から、自分の嫌いな性格（短所）も見方次第で長所となる（裏表の関係）ことについて、なかまとの意見交換の中で考えを深めていた。

③振り返り、生き方についての考えを深める場面

→短所を長所としての見方に変えることに留まらず、一人一人が自分の性格をどう捉え、これからの生き方に生かすかについてしっかりと考えられた。

今後の道徳教育の推進に向けて

- ◎ 教育活動全体を通じた道徳教育に向け、日頃からの学級経営や意図的な場面設定を意識する。
- ◎ 多様な意見を受け止め、認め合える雰囲気づくり、共に学ぼうとする教師の姿勢が大切である。

【公開授業「おじいさんのあたたかな目」(坂出市立松山小学校 村川慶子教諭)】

「日々の生活が家族やこれまでの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちを持ち、これからの生活の中でその思いにどう応えるか」がポイントでした。授業者の村川先生は、「事前読み」から、「感謝とは何か」という児童の疑問を中心課題に掲げました。主人公の気持ちの変容を視覚的に表すために構造的な板書に努め、児童は板書を手がかりに課題に向き合い、考える姿が見られました。



「あしたは僕のほうから声をかけてみよう」という主人公の気持ちが高まる場面では、ワークシートに書く時間、グループで伝え合う時間をしっかり確保しました。全体の意見交流では、村川先生がファシリテーターとして発表者の意見を聞き、「声をかけることでどんな気持ちになってほしい」「みんなであればどんな言葉をかけるか」と発問し、「自分も支えられたから今度は私が支えになりたい」「これまでの感謝の気持ちを込めた声かけをしたい」等、子どもたちの考えの深まりが十分に感じられる交流が展開されました。終末の振り返りでは、児童の生まれてからこれまでの写真をスライドで見たり、板書を確認したりする中で、子どもたちは改めて、「自分にとって感謝とは」という課題に向き合う姿が見られました。

【授業後の検討会(香川大学 准教授 清水顕人 氏)】

「感謝」の心は主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。児童は、現在の自分があるのは、過去も含めて、多くの人々によって支えられてきたからであることをしっかりと自覚できたのではないか。振り返りでは、「これまでの感謝の気持ちを伝えたい」「伝えたいけど恥ずかしいから手紙で伝える」など、児童一人一人が自分の言葉でこれからの生き方を語れる授業であった。

(1) 確かな学力を養うための素地づくりについて

- ①道徳科における「事前読み」の際、家族と一緒に教材を読み、意見を聞いて、自らの「問い」を立てる。
※道徳科における「問い」とは、「このことは許せない」や「これ、何かおかしいのでは?」という道徳的問題に関わる問いのこと。
- ②授業で扱った教材について、再度(家族で話し合い)、自分の考えを書く。
※道徳的問題を含む内容(新聞記事など)について、自分なりの考えを書く。

(2) 「個を活かす協働的な学び」の実現を目指した学習支援の工夫について

- ①児童自身が学習活動を振り返って価値づけをする場面設定
- ②自分自身の成長を自覚する場面設定
- ③自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できる場面設定
※「変容」とは、考えが大きく変わるだけでなく、「深まりが強化」されることも含むと捉える。

(3) 道徳科における「つまずき」をどのように捉えるか

- ※「教材の中でだけ考え、自分事として考えられない」子どもは何につまずいているのか
(例)「人の気持ちが分かりにくい」はつまずきなのか、気質なのか、効果的な教師の支援とは何なのか。